

(様式第 号)

## 行政視察報告書

平成 29年 1月 31日

呉市議会議長 殿

呉市議会議員 奥田 和夫  
久保 東

次のとおり行政視察したので報告します。

### 1. 視察期日

平成29年1月24日(火) 25日(水)

### 2. 調査項目

大分県 宇佐市 宇佐市平和資料館開館にあたっての考え方について

---

### 3. 参加議員

奥田 和夫 久保 東

### 4. 随行者

なし

### ■調査項目

#### ・調査期日

平成29年1月24日(火) 14時30分～16時30分

・宇佐市平和資料館解説に関して市民団体である「豊の国宇佐市塾関係者」との懇談を行う。

平成29年1月25日(水) 9時30分～12時00分

・宇佐市平和資料館の開館までの経緯等、宇佐市教育委員会社会教育課長・平和ミュージアム建設準備室課長補佐より説明を受け、質疑応答後、戦争遺構の案内説明を受ける。

#### ・市の概要

人口： 59,452人 (H25.12月)

世帯数： 25,942戸

・調査目的

今回の視察では、大分県宇佐市に開館予定である宇佐市平和ミュージアム（仮称）における開設までの経緯や展示方針などを学び、また地域に点在する戦争遺構や現在開館している宇佐市平和資料館などの視察を行う中で、今後の大和ミュージアムにおける平和展示の充実に向け、参考にすることを目的とする。

・調査内容

【市民団体・行政との説明等の概略】

・初日、平和ミュージアム開館に関しても、また、現在、開館している平和資料館開館にあたって尽力されてきた市民団体である「豊の国宇佐市塾」の中心となっているお二人の方からお話を伺った。まず、現在ある宇佐市平和資料館に開館にあたっては、戦争及び平和に関する資料を収集・保存し活用する中で、広く市民に観覧を供し、平和学習・生涯学習の場を提供し、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えることを基本に進めてきた歴史を説明された。市内に点在する戦争遺構に着目し、市内出身の偉人や歴史を研究されている「豊の国宇佐市」と宇佐市の協働で宇佐市航空隊の歴史に関する取り組みを丁寧に進める中で、平和に関する活動の機運が盛り上がり、また、映画「永遠のゼロ」と宇佐海軍航空隊との関連で、映画で使われた零式艦上戦闘機 21 型実物大型模型を購入するに至り、平和資料館を開設し展示公開されることとなったそうだ。基本的に立場を超えての取り組みにしていったとの事。それぞれ主義主張がある中で 4 半世紀を超えて連携していった。来館者には宇佐市の被害状況を見ていただく中で、被害者的な立場に留まらず、朝鮮の人たちを強制連行しての労働の強要など加害者としての立場を明確にしているとの事。

・宇佐市の説明においては、掩体壕が市の文化財指定をされた。（日本で 2 番目）戦後 50 年。平和元年として取り組みが始まった。その 10 年後に 軍が作った壕の後も文化財指定して行った。H22 年度に市内に残っている遺産などを（遺構）国から払い下げ（H23）をして文化財指定をしていった。こうした取り組みの中で平和ミュージアム建設に向けて動き出した。数多くの残っている遺産・遺構の 29 ヶ所を短期・中期・長期に分類して、短期に該当した 6 つの遺構をミュージアムに展示する運び。現在、10 万人を超えたところ。無料で鑑賞できるようにしている。反戦平和を願う市民の思い・願いなどを大切にしている。それを新しいミュージアム建設に活かそうとされている。

・市内に点在している遺構整備と資料館建設に取り組んでいく上で、資料館建設に向けて明確なメッセージとして、平和の大切さと命の尊さをテーマとしているとの事。（爆弾池＝直径 10 メートル 深さ 1 メートル 50 センチ 調査発掘が昨日完了した。）戦争遺構の整備に関しては、市民からの募金を集め、その資金に充てる取り組みも行っている。（市民の意見・団体の意見を幅広く聞く姿勢がある。）

・戦艦大和での戦死者数 3000 人。全国の特攻隊で戦死された方の数が 4,000 人となっていることから、産業進歩も使い方を間違えれば大変なことになるという現実を、戦艦大和の歴史から学習していく場になるのではないかと指摘も。博物館とは、盧溝橋、抗日博物館などにおいても説明が多すぎるとその政権の色（考え）に影響を受けてしまう（展示内容や説明に変更が求められる可能性）ことは避けられなくなる。だからこそ、来館者に事実を見てもらって感じてもらう必要があるのではないかと。解説は必要最低限で良しとすべき。行政としても中立的な立場を取らざるをえないのが現実。一方で、中立な立場で何も考えずに展示するという姿勢は、戦争賛美、あるいは戦争責任肯定などの意図をカモフラ

ージュするという指摘も確かにあるかもしれない。しかし、見る人によって考え方はある。だからこそ戦争の歴史を学ぶ場所はどうしても必要。何故なら今の権力者は何も考えない子を育てるのが良いと思っ

ているわけだから…そういった意味でも平和ミュージアムがあることは意義があると言える。  
・原水爆禁止大会にメッセージを出している市長の宇佐市は、平和ミュージアム建設に向けて、右から左まで集まったの取り組みとなっている。今の政権のあり方や時代の流れの中で、戦争をする国になってしまうのではないかと

いった危機感・思いは感じている。ただし、平和資料館を見た方への信頼はある。愚かな戦争で亡くなりました…こういったセンテンスでは、気持ちが萎える。そこにとどまっていたはいけないのではないか。個人として、歴史を見る力を育てる必要があるのではないか。流れに乗らず、へそ曲がり

#### 【呉市での展開の可能性】

と変わり者を育てる必要があるのではないか。戦争が始まる不安は持っている。(戦争を止める力は)戦争の歴史に学ぶこと。それくらいしかできないと思う。  
・知覧の博物館などもそうだが、当時の方が特攻隊を忘れてほしくないという思いが強い。しかし、一切の解説を持たせない。物が語るといった姿勢を堅持することも必要ではないか。戦後30年では、まだ戦争が語れなかった。資料はたくさんあったはずだが…。50年後にやっと語り始めてもらえることもある。私たちは歴史を掘り下げるという姿勢で始めた。ミュージアムに展示してあるその「物」で戦争反対・平和なのか、戦争讃美なのかは、来館した方が判断してほしいとの考えで始めていった。宇佐市は文化財の扱いが違い、遺跡破壊を許さないという姿勢がある。何度か呉を訪れて、大和ミュージアムも観てきたが、呉市の歴史を感じる場面が館内で少ないのは事実。呉の歴史の中に大和があるわけで、歴史の流れの中で、降ってわいてきた様な感じを持たせる展示のあり方は物足りない。地域とのつながりが感じられない。歴史をどのような立場で見るのか 平和のメッセージはどうなっているのか